

車いすのお客様が不便なく 新幹線に乗車できるようにしよう。

12月3日、参議院国土交通委員会において、れいわ新撰組木村英子議員が一般質問を行いました。木村議員は、日頃車いすを利用する立場から、①車いすスペース（座席）の購入は、「前日まで」ではなく当日も優先させてほしい。②のぞみの場合、約1300人が乗車できる中で車いすスペースが2席なのは少なすぎる。2020パラリンピックに対応できるのか。③自分のような大型電動車いすにも対応できるスペースを確保してほしい。と車いす利用者にとっての新幹線の不便さの改善を訴えました。

赤羽国土交通大臣は、木村議員への答弁で「（優先購入について）ご指摘はもっともだと思う」「バリアフリー社会を推進する政府の強い意志をしっかりと受け止め、見直す際には障害者の声を直接聞いてほしい」などと話しました。また、赤羽大臣は12月6日の閣議後会見で、J R各社や障害者団体と改善に向けた検討会を、12月中に設立することを明らかにしました。検討会ではすぐに取り組める当面の対応策だけでなく、車両構造の見直しなど長期的な改善についても議論されます。

車いすスペースを拡大し 車いすなどのお客様専用とする。

私たちは、木村議員の訴えをJ R東海（新幹線職場）で働くものとしてしっかりと受け止めなければなりません。また、私たち関西地区分会の組合員は、新大阪駅において車いすなどお身体のご不自由なお客様が乗降する際のお手伝い（対応）を行っています。本来ならば、車いすのお客様（木村議員）からの声を聞く前に、私たちが不便さに気付き改善しなければなりませんでした。木村議員の訴えは、赤羽大臣ではありませんがもっともです。

車いすスペース（座席）の拡大については、11号車の幾つかの座席を撤去すれば車いすスペースが拡大できます。大型電動車いすやハンドル型電動車いすなどが余裕をもって乗車できるようになり、パラリンピックにも対応できます。車いすスペース（座席）の販売については、当日の一般販売をやめて、車いすなどお身体のご不自由なお客様がいつでも利用できるようにすれば問題はなくなります。今月中にも検討会が設立されますが、私たちはJ R東海（新幹線職場）で働くものとして、労働組合（J R東海労）として、不便さの改善に向けて会社に対して申し入れなどの取り組みを行っていきます。